

カムイワッカ部会のあり方と今後の協議予定

1. 現状

カムイワッカ部会は、知床エコツーリズム戦略の基本原則に従い、カムイワッカ地区の利用における諸課題を整理し、利用のあり方や管理計画、利用ルール等について検討・調整・策定することを目的とした、知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の個別部会である。

当部会では、（1）幌別以奥の自動車利用適正化対策（2）カムイワッカ湯の滝の利用（3）カムイワッカ～硫黄山登山口の道路利用（4）その他目的達成に必要な活動、を担当している。

（1）幌別以奥の自動車利用適正化対策においては、公園内のアクセスコントロールが様々な方法で継続実施されており、（2）湯の滝の利用においては、事前予約制の導入による混雑緩和の効果が一定程度確認されている。また、（4）その他目的達成に必要な活動としての2020年度からのディスタンスキャンペーンにおいては、斜里町での実施のみならず、2024年度からの2年間は周年事業の一環として羅臼町においても実施しているところである。

公園全体と特定エリアの課題、観光地利用とアクセスの課題と同じ会議体で協議するメリットとデメリットの存在や公園内での他課題協議の為にも、当部会の協議範囲見直しが必要ではないかとの問題提起が事務局間ににおいてなされたところである。

2. 今後

現在、エコツーリズム戦略については、2026年度末を目標期限として見直し作業が行われている。また、カムイワッカ湯の滝等利活用促進事業については、2025年度から2027年度までの3年間を第1フェーズと位置付けている。

これらの現状および上記スケジュールを踏まえ、今後の当部会のあり方については、2027年度末を目処に全般的な見直しを行うことを、親会である知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議に提案したい

と考えている。具体的内一例として、ディスタンスキャンペーン等のヒグマ対応への普及啓発活動は両町で実施したいと考えている。

当部会以外との統廃合も検討される可能性がある事から、まずは親会への提案自体に賛否を伺いたい。併せて、当部会のあり方への要望等の御意見を頂きたく思う。

別紙：部会の枠組み想定

3. 参考資料

「カムイワッカ湯の滝等利活用促進事業」より抜粋

■第1フェーズ（2025～2027年）で取組む重点項目

①運営体制の整備

知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会を事業主体の核とし、構成員や規約の見直しを行い、分散している事務処理の改善を図る。

②収支の安定化

事業費を見直し、収支均衡を目指すとともに、収入変動への備えとして基金の充実を図る。

③利用制度の確立

レクチャーや予約システム、利用上限、開閉基準、現地管理体制、引率者の取り扱いを継続的に検証・改善する。

④安全管理の強化

気象情報や落石リスクのデータ収集を継続し、受傷リスク等の低減策を検討する。

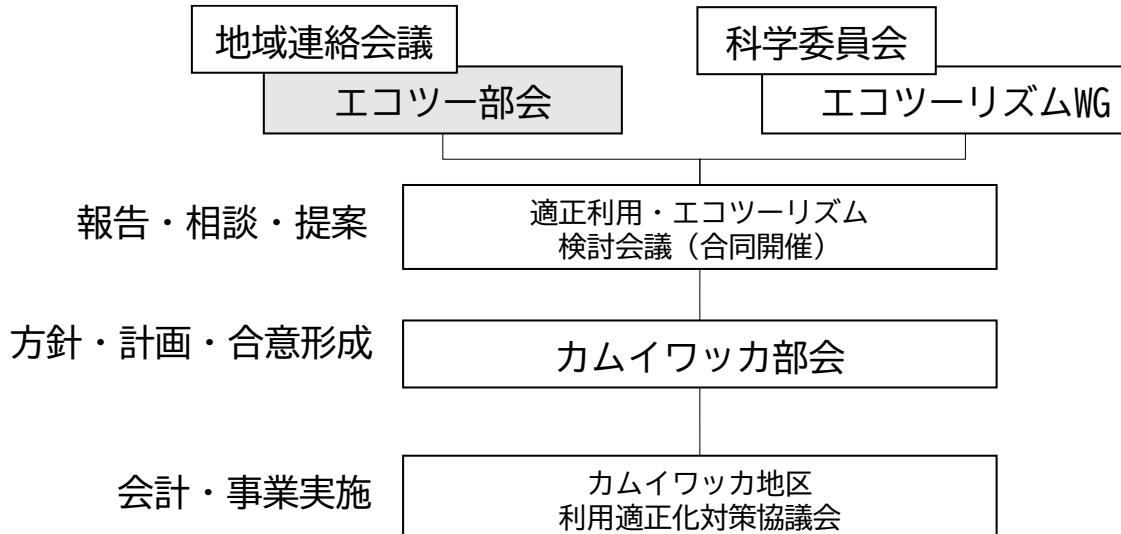
⑤ガイド等による引率要件の整理

ガイド引率型利用の促進に向け、要件の見直しを行う。

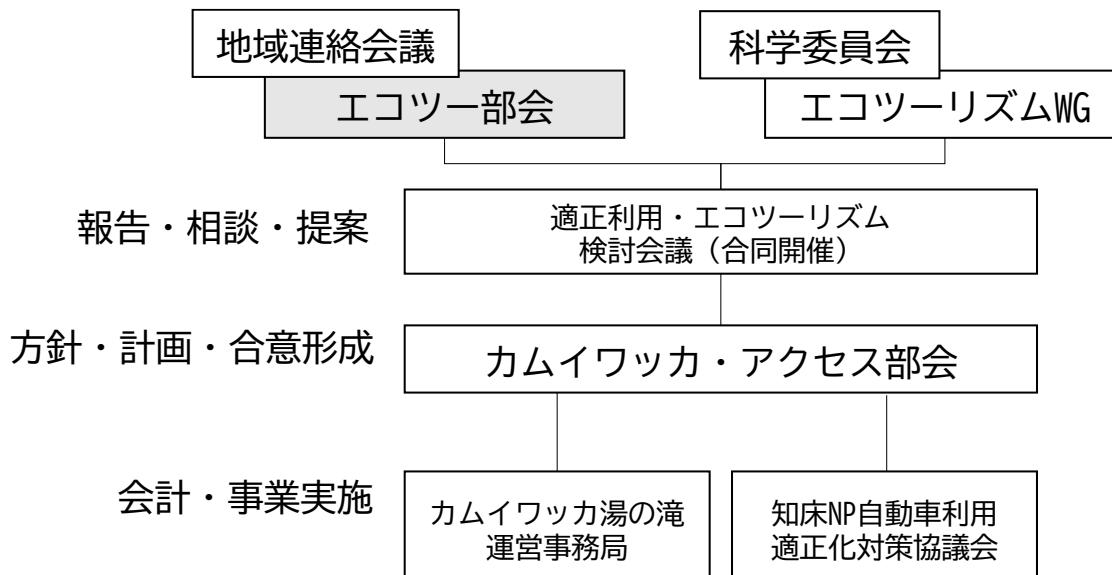
⑥公共交通とアクセスの検討

予約制導入に伴うマイカー規制の見直しや、道路工事の進捗を踏まえ、ホロベツー知床五湖－岩尾別温泉を含めた総合的なアクセス改善策を検討する。

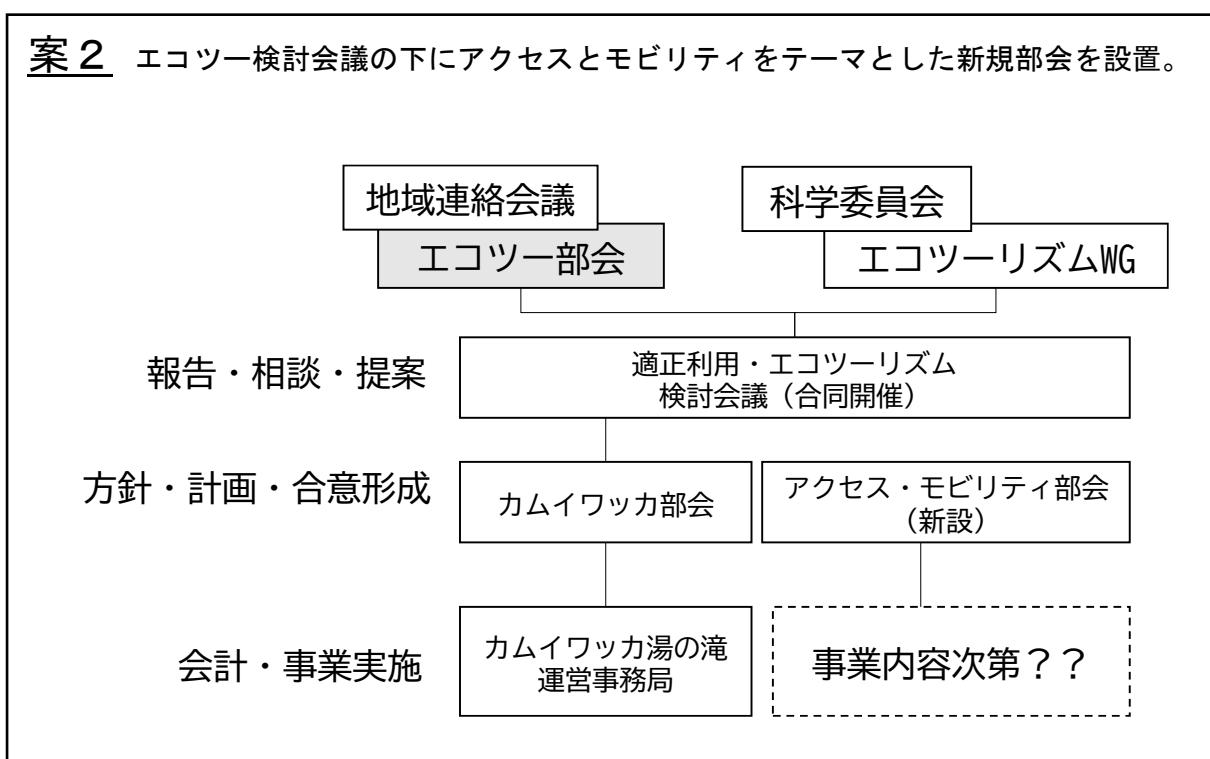
現状



案 1 現行の部会は存続（名称変更程度）させ、会計・実行組織を分割



案2 エコツー検討会議の下にアクセスとモビリティをテーマとした新規部会を設置。



案3 検討・試行系の事業と自律・自走した事業とで分割

